

委員会報告書

委員会名	2020年度第5回生産技術委員会
開催日時	2021年01月14日(木) 15:30~17:20
開催場所	TEAMS
出席者 (敬称略)	齋藤委員長、下河原副委員長、大畑、岩間(運営幹事)、内山、深江、青木、広瀬(運営幹事)、三上、岡本、村井、大内、増田、村田、古井、阿部(敬称略) 以上25名中16名
議事	<p>1. 委員変更に関する報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ INPEX: 玉村委員から広瀬委員へ交代。運営幹事も引き継ぐ。 <p>2. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本委員から幹事会議事概要が報告された。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 次回以降講演会の開催方針については、実開催・オンライン開催の他、両者のハイブリッド開催も検討する。 ✓ 決定判断のタイミングは、講演会の3か月前を想定するが、理事会を開催する偶数月、即ち来年度ならば令和3年2月の理事会に間に合わせたい。 ✓ 要旨集の扱い(無料か有料か、配布対象範囲)についても、開催方針と併せて検討する。 ✓ 1月13日開催の第10回幹事会では、緊急事態宣言を含む現状を鑑み、オンライン開催が優勢。2月幹事会で再度話し合い、理事会に上げる。 <p>3. 理事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 齋藤委員長から理事会議事概要が報告された(幹事会報告と重複する内容は省略)。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 奥井協会賞選考委員長より、現行の石油技術協会賞選考規定および運営指針について、退会時の受賞資格者の明確化、および奨励賞授与の推進を目的とした改正案の提案があった。審議の結果、原案どおり承認された。 <p>4. 2020年度オンライン学術大会関連</p> <p>4-1. シンポジウム原稿の査読状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩間委員から、シンポジウム原稿の査読状況の説明が行われた。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 現在、7本のシンポジウム原稿を査読中。 <p>4-2. 学生優秀発表者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩間委員から学生優秀発表の選定結果報告が行われた。 <p>4-3. アンケート結果の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩間委員から学術大会アンケート結果の報告が行われた。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 回答数35名。 ✓ 個人講演に関して、今回の開催形式は自由な時間に繰り返し視聴可であり良いという意見がある一方、動画公開期間が短い、ライブ感に欠ける、質問しにくいといった意見もあった。次回以降の開催形式については、下記のようなアンケート結果となった。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 今回の動画投稿形式が良い: 43% ➢ ビデオ会議方式で、発表と質問がリアルタイムで行われるものが良い: 20% ➢ 動画投稿形式だが、質問にリアルタイムで返答が貰える「コアタイム」が設定されている形式が良い: 37%

- ✓ シンポジウムに関して、ビデオとライブを併用した点、ショートバージョンのプレゼン後に元々集まっていた質疑に答えるという講演の進め方についてよかったという意見があった一方で、動画公開期間が短い、実開催に比べて意見交換の幅が少なかったという意見もあった。次回以降の開催形式については、下記のようなアンケート結果となった。
 - 講演のみで良い：22%
 - 講演とパネルディスカッション両方実施が良い：75%
 - パネルディスカッションのみで良い：0%
 - その他：3%
- ✓ 学術大会のオンライン開催については、運営側の負担にならないやり方で進めるのが良い、地方在住や日程が合わない人もいるのでオンラインオフラインどちらからも参加できた方が良い、という意見があった。また、年に1,2回の頻度で大量の発表を短期間に公開するのではなく、月に数回等の高頻度でテーマ別に小規模でオンライン開催した方が他業種/他業界/同業他社の方とのコミュニケーションがより深まるのではないかという意見もあった。次回以降の開催形式については、下記のようなアンケート結果となった。
 - 従来のオフライン・現地参加形式が望ましい：20%
 - オンライン形式が望ましい：9%
 - 参加費用が発生してもいいので、オフラインとオンライン両方で参加できる形式を希望する：37%
 - メリット・デメリット混在するので、運営側に一任する：34%

5. 2021年度春季講演会シンポジウム関連

- ・ 下河原副委員長より、2021年度春季講演会シンポジウムの方針について説明があった。その後、シンポジウムのテーマ、講演題目、開催形式(パネルディスカッション/個人講演)について話し合われた。
 - ✓ カーボンニュートラルの話は、他の学会でも取り上げられており、当協会としてもその話題を避けることはできない。
 - ✓ 低炭素化や水素の利用、CCUSをも含むテーマとして、カーボンニュートラルにどう取り組むかという話ができれば、話題の鮮度としても良く、また学生も興味ある点かと思う。
 - ✓ カーボンニュートラルというと、脱石油・天然ガスという話になってしまいがちだが、一方で石油・天然ガスは依然として重要であるという話が合っても良いのではないか。
 - ✓ 開催形式については、講演(5-7件)とパネルディスカッションとすることとなった。

6. 次回以降の委員会開催場所について

- ・ 現在のコロナ禍の状況を鑑み、次回委員会もオンラインで開催する。

	2020(実績及び案)		2019
第1回	5月 7日(木)	JOGMEC→紙面開催	JOGMEC
第2回	7月 2日(木)	INPEX→オンライン	INPEX
第3回	9月 2日(水)	JX→オンライン	MCX
第4回	11月 19日(木)	秋田大→オンライン	九大
第5回	12月 4日(金)	東北大→中止	京大
第6→5回	1月 14日(木)	CIECO→オンライン	JX
第7→6回	3月 4日(木)	JAPEX→オンライン	JAPEX

- | | |
|--|---|
| | <p>7. 石油開発冬の学校への協力対応方針について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 石油技術協会としては必要であれば「冬の学校」開催に協力するが、現時点で同学校の運営事務局から正式な依頼はない。・ 各技術委員会で対応するというよりは、石油技術協会全体として対応する <p>8. その他</p> <p>8-1. 学会誌表紙写真選定状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 岩間委員より、2021年度学会誌表紙について紹介があった。 <p>8-2. オンライン投稿・査読システムの運用について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 広瀬委員より、オンライン投稿・査読システムの紹介がされた。 <p>9. 話題提供</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生産技術委員会による活動紹介<ul style="list-style-type: none">✓ 「AWSにおけるシミュレータ性能試験評価」
日本オイルエンジニアリング株式会社 大内 久尚 様 |
|--|---|

以 上